

プログラム名	給食・いただきます! つながり、発見	
実施団体	○団体名: PW研究会 クラブ・オーティア ○代表者名: 高橋 万里子 ○電話: 022-723-1390 ○FAX: 022-723-1391 ○住所: 仙台市青葉区米ヶ袋1-3-30 レジデンスサンシャイン米ヶ袋403 (特定非営利活動法人 水・環境ネット東北 内) ○E-Mail: mizunet@mizunet.org	
対象者	小学3~6年生、中学生、高校生、成人	
対象人数	約30人前後(ただし構成によってはそれ以上でも可) ※不特定参加者にも対応可能	
学習場所	室内	
学習時間	0.5~1時間にて調整可能	
実施時期	通年	
準備物品・費用等 (講師謝金を除く)	実施団体側	プログラム教材: 生存環境要素カード・つながり発見パズル・食材カード ほか ワークシート(実践アクティビティの範囲にて考慮)
	利用者側	ホワイトボード、筆記用具
事前打ち合わせ	実施10日前くらいに、実践範囲・内容について打ち合わせ	
効果的な学習段階	食べ物から「食育」「環境学習」へ (関連項目: 食料自給率・食料の地産地消・フードマイレージ・生物多様性)	
学習概要	1. 学習のねらい	
	<p>食事の前に発する「いただきます!」は、毎日の食生活において多くの生物の「いのち」をいただいて私たちの「いのち」が維持されている、その多くの「いのち」に、また、その食べ物を作ってくれた労力に感謝をするための、日本独特な習慣と言われている。</p> <p>このように、多くの「いのち」で作られた「食べ物」、並びにその「食べ物」によって支えられている私たちの「いのち」の大切さに気付くとともに、「食物連鎖」が「いのち」の繋がりでもあることを伝える。</p>	
	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
	<p>(1) 人間も含めたすべての動物が生きていくために必要な物は何か? そしてその物〔食べ物・水(生存環境要素)、棲みか(生息環境)〕が無くなったらどうなるかを話し合う。 (既存アクティビティの実践ほか)</p> <p>(2) 生存環境要素の一つ「食べ物」をテーマとして、私たちの「食べ物」が、いかに多くの自然界の「いのち」と「力」に支えられているかを知る。 実践に当たって、本プログラムの主要対象者(児童)が、より臨場感と興味を持ってもらえるよう、仙台市の「学校給食の献立」をプログラムの素材として利用する。</p> <p>① 給食献立パズルの実践 献立の多彩さ(種類・地方色・季節感等)と、その意義に気付いてもらうため、給食の「献立パズル」を実践する。 ※献立パズルは5種類(5日相当分)を準備。</p>	<p>1. この学習で学べる献立</p> 

